

自動車整備事業者のための
社会科見学
受入れマニュアル・事例集

令和7年6月

国土交通省

物流・自動車局 自動車整備課

はじめに

児童や生徒（以下「生徒等」といいます。）を対象とした社会科見学は、生徒等が整備工場を訪れ、自動車整備士の仕事を間近で見ることによって、自動車整備士の魅力を深く知り、将来の選択肢の一つとして自動車整備士を考えることにつながる可能性のある取組です。

本マニュアル・事例集は、生徒等の社会科見学の受入れを検討している自動車整備事業者において、疑問点や不明点がある場合や社会科見学の内容を充実させたい場合などに参照いただけるよう、社会科見学の受入れのポイントや具体的な事例などをまとめたものです。

社会科見学に期待される効果・メリット

潜在的な自動車整備人材の発掘

自動車に興味はあるものの、これまできっかけがなかっただけで、将来の選択肢の一つとして自動車整備士を思い描いていなかった生徒等がいる可能性は十分にあります。

そのため、社会科見学として、広く生徒等の受入れを行い、自動車整備士の魅力を直接伝えることで、将来の自動車整備士の確保につながることも期待されます。

「無関心」から「興味」へ

今日において、自動車整備士の魅力を知る生徒等はそう多くありません。

そのため、まずは自動車整備士を知ってもらうために、社会科見学に参加してもらうことも有益です。その結果、これまで全く意識していなかった自動車整備士について、「もっと知りたい」、「仕事を体験してみたい」、「自分もなりたい」といった思いを抱き、自動車整備士を将来の選択肢の一つとして検討する生徒等が出てくることも期待されます

目 次

1. 一般的な社会科見学の受入れの流れ	・・・・・・・・ P 2
2. 一般的な社会科見学の受入れの流れの詳細とポイント	・・・・・・・・ P 3
(1) 事前準備	・・・・・・・・ P 3
(2) 受入準備	・・・・・・・・ P 6
(3) 実施日当日の対応	・・・・・・・・ P 7
3. よくある質問集	・・・・・・・・ P 8
4. 事例集	・・・・・・・・ P 10

1. 一般的な社会科見学の受入れの流れ

(1)事前準備

✓ 受入体制の構築



✓ 学校訪問の準備

- 訪問する学校の決定・学校リストの作成
- 案内文書の作成
- 受入事業場の情報整理



 学校訪問



(2)受入準備

✓ 学校からの社会科見学実施依頼の受付



✓ 行程表（スケジュール）の作成



✔ 実施日までの準備



(3)実施日当日の対応

 緊急連絡対応



2. 一般的な社会科見学の受入の流れの詳細とポイント

(1) 事前準備

ア 受入体制の構築

社会科見学の受入れは、通常業務に加えて行うものです。そのため、漠然と受入れを行った場合、現場や管理職の業務負荷が過度に高くなり、円滑に生徒等を受け入れられないリスクがあります。

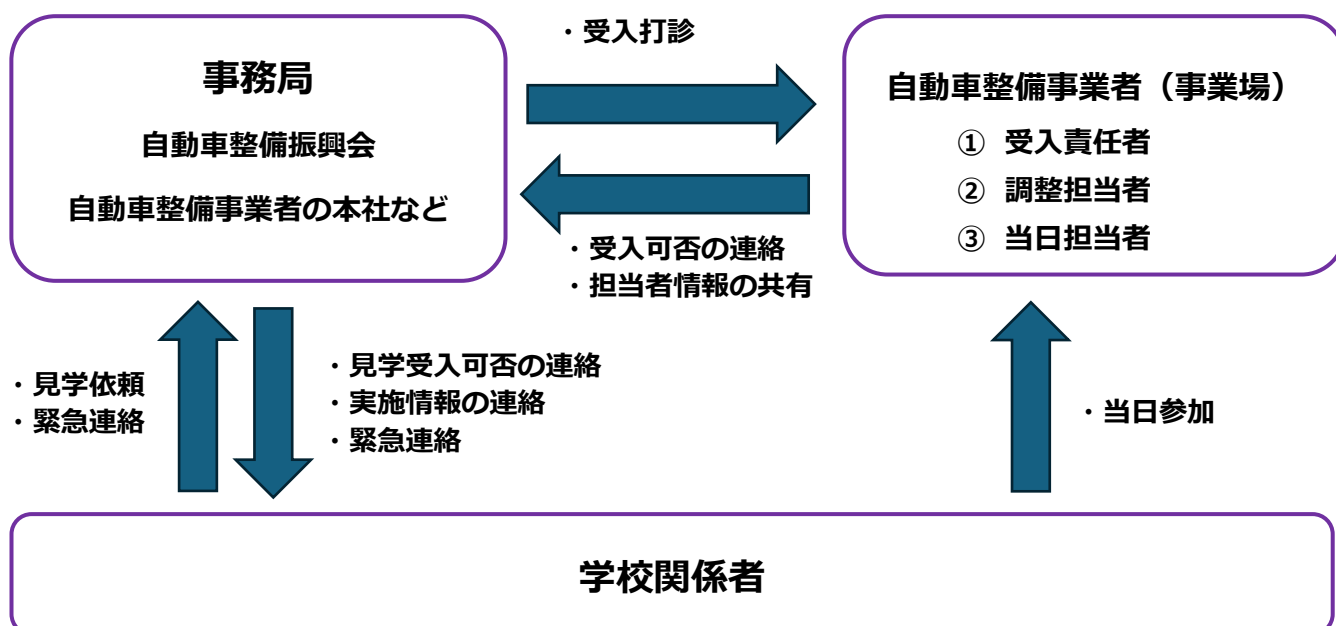
そのため、社会科見学の受入れにあたっては、事前に受入体制を構築して業務分担を明確にし、効率的に生徒等を受け入れられるようにしておくことが望ましいです。

以下では受入事業者等の役割（業務分担）と受入体制の一例を示しますが、受入事業者の規模や参加生徒等の人数などにより適切な受入体制は異なるため、具体的な事情を踏まえ、無理のない受入体制を構築することが肝要です。

(ア) 受入事業者等の役割（業務分担）の例

事務局	学校と自動車整備事業者をつなぐ窓口業務を担当
受入責任者	学校から社会科見学の実施希望の連絡を受けた後、受入可否の決定等を担当
調整担当者	社会科見学実施日までの自動車整備事業者と事務局との打合せの調整等を担当
当日担当者	社会科見学実施日当日の参加生徒の対応等を担当 ※全体説明、施設案内、質疑応答など、担当者を分けることでも差し支えない

(イ) 受入体制の例



イ 学校訪問の準備

社会科見学は、学校から依頼を受けて初めて成立するイベントです。

そのため、学校を訪問して、学校関係者に対し、社会科見学の受入れを行うことが可能であること、社会科見学では生徒等に素晴らしい体験をしてもらえることなどを分かりやすく説明し、社会科見学の実施を検討してもらうことが必要となります。

そこで、例えば、次の(ア)～(ウ)のようにして、学校への訪問の準備を進め、準備が整ったら学校へ訪問し、社会科見学の PR をすることが望ましいです。

Point



社会科見学は授業の一環として学年単位で実施するケースが多いため、整備工場の見学が授業に相応しい内容であることを分かりやすく PR する必要があります。

(ア) 訪問する学校の決定・学校リストの作成

訪問する学校を決定し、そのリストを作成・管理していくことが望ましいところ、例えば、次のようにして進めていきます。

- ① 第一に、地域の学校一覧を作成します※¹。
- ② 学校一覧に、所在地、生徒等の数、(高校の場合) 学科や就職希望者数等の必要な情報を整理します※¹。

※¹ 高校の場合、「高卒就職 WEB 提供サービス> 全国高等学校便覧」(下記 URL 及び右記二次元コード参照)などを参考にすることが考えられます。

https://koukou.gakusei.hellowork.mhlw.go.jp/cont/catalog_college.html



- ③ 適宜、地域の自動車整備専門学校に対して協力を依頼します※²。

※² 地域の自動車整備専門学校(特にその広報部門)は、生徒募集のために定期的に高校に訪問していることから高校に関する情報を多く有しています。そのため、可能であれば、適宜、自動車整備専門学校に対して訪問や案内チラシの送付への協力(例えば、アポイント先の紹介や注意点の共有など)を依頼するのが望ましいです。

- ④ 訪問を希望する学校に電話してアポイントを取ります※³。

※³ 高校の場合、進路指導担当教諭のアポイントを取ることが望ましいです。

- ⑤ 訪問する学校が決まったら、①の学校一覧を基に適宜まとめおきます。

Point



国土交通省は、毎年、自動車整備人材確保・育成推進協議会及び各都道府県の自動車整備人材確保・育成連絡会と協力して高校を訪問し、自動車整備士の仕事等に関する説明を行っています。
この高校訪問活動と連携して社会科見学の PR を行うことも考えられますので、適宜、最寄りの運輸局又は運輸支局にお尋ねください。

(イ) 案内文書の作成

訪問する学校が決まったら、訪問時に使用する案内文書を作成することが望ましいです。案内文書の作成にあたっては、例えば、次の点に留意いただくのがよろしいと思います。

- ・タイトルは、ひと目で社会科見学の案内であることが分かるようなものとする
- ・受入可能人数、事業場の所在地、見学可能な内容を分かりやすく記載すること
- ・事務局や自動車整備事業者の連絡先を必ず記載すること

Point



案内文書は学内で共有しやすいよう数ページのものにすることが望ましいです。

(ウ) 受入事業場の情報整理

案内文書に全てを記載する必要はありませんが、可能な限り、学校への訪問前に、受入事業場の情報をまとめておくことが望ましいです。

＜まとめておくことが望ましい受入事業場の情報＞

- ・ 受入可能な生徒等の数： 社会科見学は学年やクラス単位で実施することが多いため、一度に、大型バス1台分の人数（約40名）以上の受入れが可能であることが望ましいです。
- ・ 会議室の有無： 整備工場内の見学はもちろん、可能であれば、企業概要や自動車整備業界の展望などの座学を実施することにも有益であるため、会議室のある事業場で受け入れることが望ましいです。
- ・ 見学の所要時間や体制： 施設見学や座学に要する時間、受入事業場の受入体制（担当者の役職や人数）などを事前に整理しておくことが望ましいです。
- ・ 駐車場の有無： 先述のとおり、学年やクラス単位で実施し、大型バスで移動することも想定されるため、事前に、大型バスを駐車できるスペースがあるかどうかを確認しておくことが肝要です。
- ・ アクセス： 学校から受入事業場へ向かう場合の所要時間や経路（大型バス利用時と公共交通機関利用時の両方）についても、事前にまとめておくことが望ましいです。

ウ 学校訪問

中学校や高校では、進路指導担当教諭を中心に、年間の進路指導計画が決定されています。具体的には、進路指導担当教諭が、例年実施している指導内容や外部から提案を受けた新しい指導内容などを基に計画案を作成し、その後、学年会議における協議を経て、正式に年間の進路指導計画が決定されるという流れが一般的です。そのため、新しい指導内容の提案が魅力的なものであれば、年間の進路指導計画に採用される可能性がありますので、中学校や高校を訪問して、社会科見学の魅力を分かりやすく紹介することが肝要です。

（２）受入準備

ア 学校からの社会科見学実施依頼の受付

学校からの社会科見学実施依頼の受付後、次の確認・準備をすることが望ましいです。

＜学校に確認することが望ましい事項＞

- (ア) 参加人数： 会議室の確保や受入事業者における対応人員の調整に必要な情報です。
- (イ) 移動手段： バス移動時の駐車場や自転車移動時の駐輪場の調整に必要な情報です。
- (ウ) 要望事項： 実施内容に対する要望があれば、よく確認しておく必要があります。
- (エ) 緊急連絡先： 当日の緊急連絡先は相互に確認しておく必要があります。

＜受入事業者において準備することが望ましいこと＞

- (ア) 見学内容： 参加人数や学校の要望などを踏まえ、当日の見学内容を検討します。
- (イ) 資料作成等： 実施内容が決まったら当日使用する資料の作成等を行います。

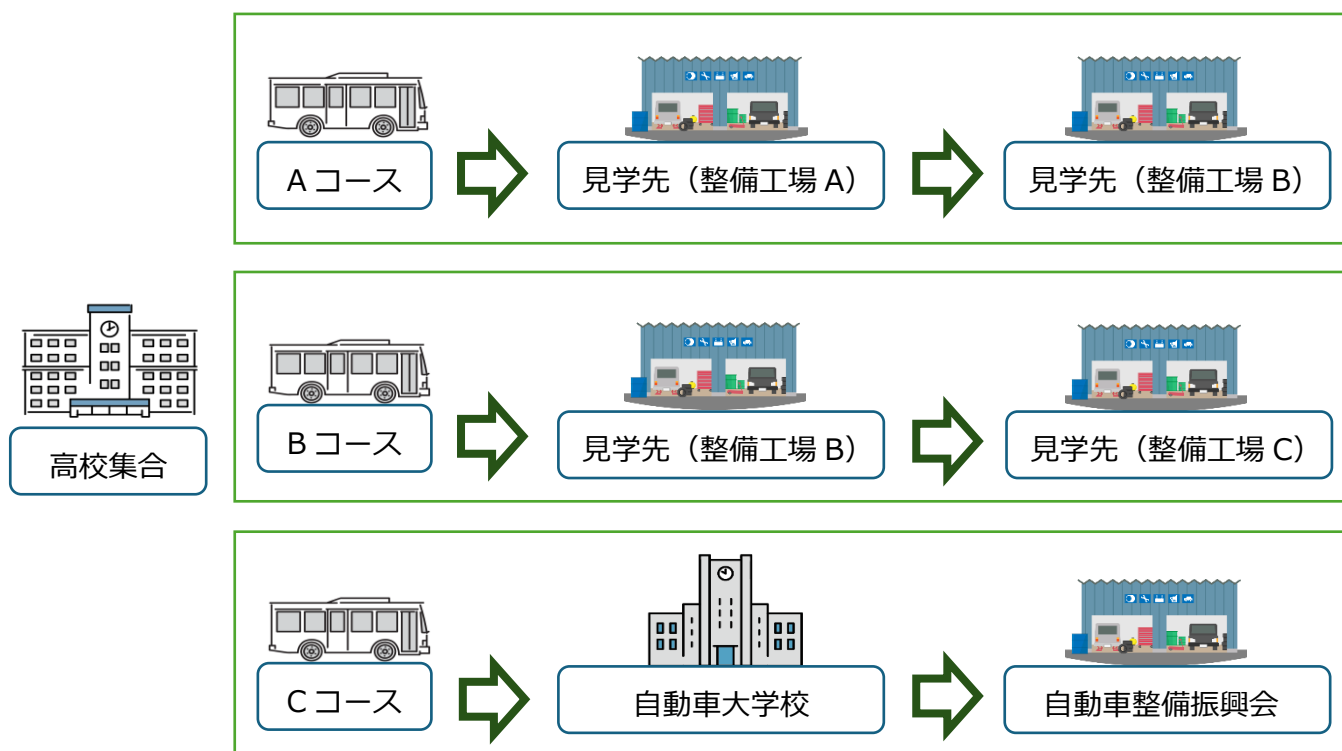
イ 行程表（スケジュール）の作成

アの確認・準備の結果を踏まえ、当日の行程表（スケジュール）を作成します。

＜行程表（スケジュール）に記載することが望ましい事項＞

- ・当日のスケジュール： 見学先への到着時間、見学開始・終了時間等を記載します。
- ・受入担当者や連絡先： 当日の緊急連絡先として使用できる電話番号等を記載します。
- ・当日の注意点や持参物： 生徒等に持参いただきたいものがあれば記載しておきます。

参考：見学コースのイメージ



ウ 実施日までの準備

実施日の 1 週間前頃までには、可能な限り、説明資料などの当日使用する物を準備することが望ましいです。

また、受入事業者においては、事前に、当日の対応を担当する従業員全員で見学内容、説明内容、導線などを打ち合わせておくと、当日円滑に進行することが可能となります。その際、緊急時の対応（学校の連絡先や連絡方法の確認など）についても確認しておくことが推奨されます。

（３）実施日当日の対応

基本的には、行程表のとおり社会科見学を実施するのみですが、道路状況などによって参加生徒等の到着が遅れ、当初予定していたとおりのスケジュールで見学を実施できない場合もありますので、臨機応変に対応することを心がけておくことが望ましいです。

3. よくある Q A 質問集

(1) 学校関係

Q

いつ学校訪問を実施するのが適切か。

A

一年間のスケジュールは前年度末に決まることが多いと思われます。
そのため、可能であれば、2月～3月頃に訪問することが望ましいです。

Q

社会科見学の実施時期、場所、内容等はどのようにして決まるのか。

A

週1回程度開催される学年会議で検討・決定することが多いと思われます。
そのため、学校訪問時に、社会科見学を実施するとすれば、いつ頃の学年会議で決まるかを確認するのがよろしいかと思います。

Q

社会科見学の実施場所や内容はどのような情報を基に決定されるのか。

A

例えば、高校では、生徒の進路希望状況に合ったものであるか、学校から見学先へのアクセスが容易かどうかなどを参考に決定されるものと思われます。

(2) 受入事業場関係

Q

社会科見学の実施場所としてはどのような場所が好まれるのか。

A

普段の授業時間内で収まるような行程を組むことが多いものと思われます。
そのため、移動時間を含めて3～4時間程度で見学することのできる場所が採用されやすいのではないかと思います。
また、先述のとおり、生徒の進路希望状況などが考慮される場合もあります。

Q

見学時間はどの程度確保すればよいか。

A

学校の希望や移動時間次第ではありますが、概ね1時間～1時間30分程度確保することが望ましいと思われます。

Q

一度の社会科見学で受け入れる生徒等の人数はどの程度か。

A

学校の希望や在校する生徒等の人数にもよりますが、一度の社会科見学では数名～40名（1クラス）程度の受入れを行うことが多いものと思われます。

（3） 社会科見学実施当日の対応関係

Q

社会科見学には学校の先生が同行するのか。

A

見学は授業時間に実施するものであるため、通常、学校の先生が同行するものと思われます。

4. 事例集

以下では、高校生向けの社会科見学における好事例を紹介します。

【事例 1】生徒の興味を引く導入説明

実施のねらい	整備士インタビューや仕事紹介などの動画を活用して生徒が飽きないようにする。
実施内容	・企業概要（会社の歴史、事業の内容など）の説明を行った。 ・活躍している従業員の仕事内容（整備士・事務員・乗務員の仕事内容）を知ってもらった。 ・福利厚生制度（社員寮や家賃補助、家族手当、介護休暇制度、財形貯蓄制度等）も紹介した。  
実施時の工夫点	・説明を聞くばかりでは眠くなるため、次のような工夫を行った。 ✓ 適宜生徒に問いかけを行い、相互にコミュニケーションを取りながら進めた。 ✓ 文字や言葉だけでなく、会社説明動画や社員インタビュー動画などを活用した。

【事例 2】普段目にすることのない施設の見学

実施のねらい	普段見ることのできない施設を見学してもらい、職場の具体的なイメージをつかんでもらう。
実施内容	・生徒がなかなかイメージできない、納車ルームや社員のロッカールームなどを紹介し、従業員が気持ちよく仕事できる環境が整っていることを知ってもらった。 ・受付の接客方法を紹介し、対人スキルの大切さを知ってもらった。  
実施時の工夫点	・整理整頓されたオフィス環境や従業員間の業務上のコミュニケーションを見てもらうことで魅力的な職場環境であることを知ってもらうよう心掛けた。

【事例 3】リフトアップした車体下部の見学

実施のねらい	普段見ることのない車体下部を見てもらうことで、生徒に新たな興味・関心を持ってもらう。
実施内容	・大型車両をどのようにリフトアップするかを見てもらった。 ✓ リフトの操作に必要な道具や安全装備（手袋、ヘルメットなど）を用意した上で実施。 ✓ リフトのアームを車両のリフトポイントに配置すること（準備作業）から見てもらった。 ・リフトアップ作業の内容や安全対策などの説明も行った。 ✓ 耐荷重量（最大荷重）を守ったリフトを使用することが必須であることを説明した。 ✓ 車両のギアをニュートラルにし、パーキングブレーキをかけることなども説明した。
実施時の工夫点	・見学実施前に、冷却水やオイル等の漏れが無いかしっかりと確認した。 ・リフトの下に入る際にはヘルメットの着用等、安全面に配慮して実施した。

【事例 4】タイヤ交換作業の見学

実施のねらい	大型車のタイヤ交換作業を間近で見ることで、大型車の整備作業の魅力を知ってもらう。
実施内容	・大型バスのタイヤのサイズや重量など（例えば次の事項）について説明した。 ✓ 1本のタイヤだけでも 50kg あり、ホイールを含めると 100kg 以上になること ✓ タイヤの大きさは約 60cm あること ✓ リアタイヤには耐荷重性が求められるため、フロントタイヤよりも重くなる傾向があること ・実際に大型バスのタイヤを交換する作業を見学してもらった。
実施時の工夫点	・大型車のサイズ感を知ってもらうため、タイヤの重量などについて具体的な数字で説明した。 ・車両の安全性確保が最重要事項であることを知ってもらうために、タイヤを外した後の清掃作業などについても説明した。

【事例 5】エンジン構造の説明

実施のねらい	大型車のエンジンと小型車のエンジンの違いを知ってもらう。
実施内容	・大型バスのエンジンと小型車のエンジンの違いを説明した。 ✓ 例えば、エンジンの搭載位置や構造（ディーゼルエンジンとガソリンエンジンの違い、高出力・低燃費を実現する仕組みなど）について、小型車のエンジンとの違いも踏まえて説明した。 ・加えて、大型バスの整備内容も説明した。 
実施時の工夫点	・普段乗っている小型車との違いが分かるように、具体的なエンジン出力数などを説明した。 ⇒ 例えば、「kW（キロワット）」と「PS（馬力）」の定義を説明した上で、両方の数値を用いて大型バスと小型車の違いを説明した。 ・社会的関心の高い、ディーゼルエンジンの仕組みや環境問題についても触れるようにした。

【事例 6】安全性確保のための特殊設備（車外表示や非常口）の紹介

実施のねらい	普段見ることのない安全性確保のための特殊設備の仕組み等を紹介し生徒の新たな興味を引く。
実施内容	・最近の車両には防犯対策として、前後の行先表示箇所に「緊急事態発生」や「警察へ通報してください」等の SOS 表示をすることができる機能が設けられている旨実演しながら紹介した。 ・また、非常口脇の赤いカバーを上から手前に引くとカバーが外れ、その後、中のレバーを矢印の方へ引くと非常口が開くことを説明しながら実演した。 ・また、上記のとおりして開いた非常口から車外への退避体験も行った。  
実施時の工夫点	・どのような車外表示があるかをクイズ形式（適宜生徒に質問して回答してもらう形式）で紹介した。 ・非常口から車外への退避体験の際には、生徒の安全性を確保するために、車外に踏み台を用意するなどした。

【事例 7】大型バスの乗降扉の開閉体験

実施のねらい	大型バスの乗降扉の開閉体験を通じて、大型バスの機能を知ってもらう。
実施内容	・運転席に座って乗降扉の開閉体験をしてもらった。 ・運転手は、安全性を確保するため、乗降扉の開閉前後に扉付近の安全確認を行っていることなどについても、適宜説明した。
実施時の工夫点	・大型バスの開閉扉には挟み込み防止センサーなどの安全装置が搭載されているものの、同時に、運転手が目視確認することが重要であることも説明した。 ・安全性を確保するために、監督者がマンツーマンで指導しながら実施した。

【事例 8】大型車に乗ったままでの洗車体験

実施のねらい	大型車の効率的な洗車方法を間近で見えて知ってもらう。
実施内容	・大型バスの洗車工程を内部から見学してもらった（具体的な実施事項は次のとおり）。 ✓ 大型バスに参加者を乗せ、自由に着席してもらい洗車の流れを見てもらった。 ✓ 説明担当者が同乗し、適宜、洗車内容などを説明した。
実施時の工夫点	・安全性を確保するために、生徒が全員着席したのを確認してからバスを移動させた。 ・大型バスの洗車が安全性や快適性に寄与することも説明した（例えば、窓の視界を確保することにより安全性を確保することができるのと同時に、顧客に気持ちよく乗車してもらえらることなどなどを説明した。）。

【事例 9】トラックの運転席体験乗車

実施のねらい	大型車の快適な運転席などを紹介することで大型車に興味を持ってもらう。
実施内容	・大型トラック特有の運転席の高さを体験してもらった。 ✓ 実際に乗降し、乗り降りのコツなども説明した。 ・フルキャブ車は休憩スペースがあることなども説明した。 ・大型トラック特有の死角をなるべく少なくして、安全性を確保するため、ミラーやモニターを活用していることも説明した。 ✓ 例えば、安全窓、バックモニター、アンダーミラー、左右ミラーなどの位置と機能について説明した。
実施時の工夫点	・運転席に搭載されている各機器（メーター、スイッチ、ナビゲーションシステムなど）の活用方法を説明し、どのようにして安全な運行を実現しているかも説明した。 ・モニターやミラーを用いて車の周囲に立つ人（関係者）を確認することができるかどうかを、参加生徒に運転席から実際に見てもらった。



【事例 10】大型トラックのキャビンの上げ方の見学

実施のねらい	大型トラックのキャビンを上げる様子などを見てもらい、生徒の新たな興味関心を引く。
実施内容	・自動車整備士がキャビンを上げるための流れを説明して実演した。 ✓ キャビンの開放（ロック解除）方法（レバーやボタンの操作方法）についても説明した。 ✓ キャビンの上げ方には、自動式や手動式があることも説明して実演した。
実施時の工夫点	・キャビンを上げる際には、安全性を確保するための確認・点検が重要であることも説明した。 ✓ 例えば、キャブを開ける前に車両が完全に停止していることをよく確認すること、ガスケットや油圧系統の点検をきちんと行うことなどの重要性を説明した。



【事例 11】大型車のフロントパネル内の見学

実施のねらい	大型トラックのエンジンや冷却系の補器類などの位置・構造を知ってもらう。
実施内容	・小型車はボンネット内にエンジンやその他補器類が格納されているが、大型車はその構造上、オーバーキャブの方式が取られていることを説明した（例えば、フロントオーバーハングが短く、旋回半径も小さくて済むため、狭い場所での操作性が向上していることなどを説明した。）。 ・フロントパネル内の機器類（ラジエーターやインタークーラーなど）を見学してもらった
実施時の工夫点	・エンジンを見学してもらう前に、ラジエーターやインタークーラーの機能を説明し、その説明を前提に実物を見てもらうようにした。 ・高負荷のディーゼルエンジンには冷却効果が高い補器類が求められるため、普通車の補器類よりも大きいものが必要なこと（例えば、ラジエーターの幅は、普通車では 50 cm 程度であれば足りるのに対し、大型車では 1m 以上のものが必要となること）なども説明した。

【事例 12】大型車のキャビン下のエンジンルーム内の見学

実施のねらい	大型トラックのエンジンや冷却系の補器類などの位置・構造を知ってもらう。
実施内容	・大型車はキャビン（運転席部分）の脱着（交換）ができることなどを説明した。 ・キャビンの下部にはエンジン等が収納されていることやフロントパネル内の補器類との相互関係（例えば、ラジエーターやインタークーラーで冷やされた水と空気がエンジンに入って燃焼することなど）を説明した。
実施時の工夫点	・大型車の動くメカニズムを順序立てて説明すること（例えば、エンジン内の燃焼により発生した動力をトランスミッション、ディファレンシャル、プロペラシャフト等に伝えて車を動かすことなど）を心掛けた。

【事例 13】トラック荷台の構造見学

実施のねらい	普段見ることのないトラックボデーの無い車両を見て大型トラックの構造を深く知ってもらう。
実施内容	・ 荷台の無い状態の大型トラックを見学してもらった。 ・ 大型トラックの車体フレームは、車両の骨格を支えるはしご状の部品でシャシーフレームとも呼ばれること、鋼板をプレス成形した部品で構成されており、荷台の下部に装備されていることなどを適宜説明した。 ✓ フレームの形状はラダーフレームやモノコック構造のものがあるところ、今回は伝統的なフレーム設計で 2 本の長い梁とそれをつなぐ横梁から構成されるラダーフレーム構造を見てもらった。 
実施時の工夫点	・ 大型トラックは重い荷物を積載する必要がある、重い荷物を支えるためには車体づくりを工夫することが必要であることも説明した。 ・ 荷台の強度（例えば、高強度鋼や軽量素材を使用することなど）や床設計（例えば、低床設計や可動式床板など）等を、用途に合わせて工夫していることも説明した。

【事例 14】スキャンツールを使用した故障診断の見学

実施のねらい	現代の自動車には電子技術が詰まっていることをスキャンツールの故障診断の見学を通じて知ってもらい、生徒の新たな関心・興味を引く。
実施内容	・ スキャンツールで得られるデータ（例えば、次のもの）について説明した。 ✓ 故障コード（エンジンのミスファイア、ABS、エアバッグの不都合など） ✓ センサーデータ（エンジン回転数、O2 センサーのデータなど） ・ アクセルペダルを踏むと、各データの数値が変わることも見てもらった。  
実施時の工夫点	・ 使用するパソコンの画面が全生徒に見えるよう大型モニターに投影した。 ・ 従来、車両の不具合は目視や手で触れることで確認していたが、スキャンツールではデジタルデータとして正確に故障状況を把握してもらえることを知ってもらえるよう詳細な説明をするよう心掛けた。

【事例 15】車体塗装作業の見学

実施のねらい	塗装作業を間近で見学してもらい、生徒の新たな興味・関心を引く。
実施内容	・自動車整備士の行う業務において点検・整備・検査の他に塗装作業などもあることを説明した。 ✓ 自動車の塗装は、車両の外観を美しく保つだけでなく、金属部分を錆や腐食から守る役割があり自動車の保守・メンテナンスでは欠かせない工程であることを説明した。 ・塗装ルームについて、その必要性や機能などを説明した。 ✓ 塗料や溶剤には、揮発性が高く、可燃性のある化学物質が多く含まれているため、塗装作業中に発生する有害なガスや VOC を安全に管理する必要があることなどを説明した。
実施時の工夫点	・板金技術の高さを知ってもらうべく、傷がついたボディーと修理後のボディーを比較して見てもらうようにした。